

K ofu Josai

第39号

甲府城西高校通信

山梨県初の総合学科高校、夢をかなえる8系列。
好奇心旺盛な君、可能性をひろげたい君、
一緒に学んでみませんか？
私たちのこと、知ってほしくて作りました。
甲府城西高校の広報誌「K」通信です。



特集 甲府城西この1年

- 3年次生 進路実現への取り組み
- Keep challenging KJきら林亭を紹介します

甲府城西高校の今を伝える **KJ** 通信です。



令和2年度は、皆さんにとってどのような1年
今できることを前向きに取り組んできました。

2月

総合学科発表会が行われ、生徒の発表や展示
を行い、年次や系列を超えて学びました。

J-SPACEでは「発見!山梨の魅力」というテーマで私たちが住んでいる山梨県の農産物や伝統行事、観光地などについて探究しました。一人一人が違う探究活動をすることでクラス内で発表した時に新たな発見があったりして、お互いの学習を高めることができました。山梨に住んでいるのに知らなかった魅力に気づくことができ、郷土への理解を深められたと思います。

溝口望愛(1年次 双葉中出身)



4月

3月からの休校が続いたまま新年度が始まりました。

生徒のいない学校、ざわめきも部活動の掛け声も何も聞こえない。初めて体験する数か月に及んだ臨時休校…。生徒がいてこそ学校だという当たり前のことに改めて気がついた日々。生徒への思いを込めて心から「いのちの歌」を歌っていました。



教頭 清水規与美

5月

休校期間中に動画配信や課題の配布をしました。会えなくても、学校とつながっていることを、先生も生徒も心がけて過ごしました。

私は家で過ごす機会が多くなったことにより、学校に行きたいという思いが強くなりました。当初決められていた休校期間がどんどん延長され、このままずっと学校に行けなかったら…と考えることもありました。家では学校からの課題を計画的に取り組み、規則正しい生活を心がけていました。また、日中いない親に代わって家事もしていました。長い休校期間で学んだことがたくさんありました。

秋山怜菜(3年次 甲府南西中出身)



「進取創造」甲府他者を尊重し、自力強く生き抜くは、厳しい状況の中、た1年でした。コ祭をやむなく中、の精神に溢れた就職・進学に向けたしぼって頑張っ、これからの活躍

6月

5月25日より学校が再開され、感染対策をしながら、授業が始まりました。

私は中学校の頃から高校生活に憧れ、入学したらやりたいことがたくさんありました。しかし新型コロナウイルスの影響で、私が想像していた高校生活とかけ離れたスタートを切ることになりました。いろいろなことが制限されていますが、学校で友達と過ごし、授業や部活動ができることに感謝して、これからの高校生活も一日一日を大切に過ごしていきたいです。

長田ゆず(1年次 甲府北東中出身)



8月

野球部は7月下旬から8月にかけて夏の高校野球代
他の部活動も3年次生最後の試合が行われました。



夏の代替大会期間中は、テレビ中継での全校生徒の温かい応援を聞けず本当に合や実戦練習ができると思った矢先に前向きに捉えるように」という先生方からとるようにしました。一人ひとりが自主的に最後の大会では目標であった優勝はで型コロナウイルスによって私たちは楽し時間を作ることができました。まだまだをしっかり行い、かけがえのない時間を

7月

総体もインターハイも中止になり、3年次生の部活動への思いは後輩に託されました。

3年次生にとって、部活動の集大成ともいう高校総体、インターハイが中止となってしまい、部活動の目標がなくなってしまったので、練習にあまり力が入りませんでした。今までの練習や大会は当たり前ではなく、恵まれていたんだと、強く実感しました。後輩たちには、一日一日の練習を大切にしてほしいです。

齊藤俊吾(3年次 敷島中出身)



9月

免
て
た
こ
頑
才

でしたか？生徒も先生方も今までにない学校生活の中で、感染しない感染させないを合言葉に、コロナ禍での新しい学校生活の様子を振り返ります。

1月

感染予防対策をしっかりとしながら、YCC県民文化ホールで吹奏楽部の定期演奏会を行いました。

この1年は新型コロナウイルスの影響で最後のコンクールがなくなってしまい、不安とショックの中、新しい代での活動が始まりました。定期演奏会を行うのか何度も話し合い、消毒や人数制限を設けるなどして行くことを決めました。

3年間の吹奏楽部の集大成として思い出に残るステージとなり、とても良い演奏会となりました。これからそれぞれの進路に進んでいきますが、これまでの経験を活かして頑張っていきたいと思います。



金城絵里(3年次 山梨南中出身)

12月

京都・滋賀・三重へ3泊4日の修学旅行に行きました。

12月8日から3泊4日で京都・滋賀・三重に修学旅行に行きました。クラス別では、京都ならではの体験をし、タクシー研修では、班ごと計画を立て、素晴らしい修学旅行になりました。例年と違った修学旅行になりましたが、このコロナ禍で、修学旅行に行けたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

小村真菜(2年次 敷島中出身)



1年を振り返って



城西高校の校訓です。

自己の課題に、自ら進んで独創的に対応できる力を身に付けていく力を持つ。新型コロナウイルスで始まった今年1年間でいかに前を向けるか。本校の「進取創造」の精神が試され、コロナ禍でありながらも、学校再開後の活動は、6月予定の学園祭以上は全て実施することができました。校訓「進取創造」みなさんの取り組みがこのことを可能にしたのだと思います。そして、希望というエールを送ります。

校長 小俣 宏記

11月

新人戦や芸術文化祭など部活動の大会が行われました。

今年は新型コロナウイルスの影響もあり、満身に練習ができませんでした。その中で自分たちが個人でトレーニングをして試合をして勝てるようにがんばりました。私はキャプテンとしてチームを引っ張っていけるように努力しました。

小澤楽翔(2年次 甲府南中出身)

レスリング新人大会で優勝でき、コロナ禍の中、試合をさせてもらったのでうれしかったです。まだ試合が減っていくかもしれませんが、今できることを頑張る努力していきたいです。

五味虹登(2年次 甲西中出身)

10月

今年度初めての全校生徒の行事、体育祭が行われました。



今年度を振り返ってみると、一番思い出に残ったのは体育祭でした。学園祭は中止になったけれど、体育祭ができることになり、すごくうれしかったです。だからこそ、今しかできないことをしようと思い、クラスTシャツを

クラスの仲間と一緒にタイダイ柄に、自分たちで染めようということになりました。出来上がりを見た時は達成感がありました。先生にもほめられ、クラスのみんなとの絆が深まりました。綱引きで1位が取れたのもTシャツのおかげだと思います。3年次生最後の体育祭で、一生忘れることのできない思い出を作ることができてよかったです。

深澤雛樹(3年次 上条中出身)

3年次生の進路への取り組みが始まりました。コロナ禍で就職試験は1か月遅れの10月からになりました。

勉強、部活動、就職活動が重なり、大変な時期もありましたが、すべてのことに一生懸命に取り組み、忙しくも、とても充実していました。面接は担当の先生に何回も指導していただき自信をもって臨むことができました。自分の志望した企業に内定を頂けたのも、共に頑張った友だち、親身になってご指導してくれた先生方、応援してくれた家族、そして高校生活3年間の自分の頑張りに感謝しています。

内藤愛実(3年次 竜王北中出身)

商業系列課題研究では、令和元年度から地元のパン屋さん「きららベーカリー」とコラボレーションしてパンの放課後販売をしています。今年度も、調査研究を担当している8名の生徒が、きららベーカリーの他に、コロナ禍で生徒が購入しづらくなっている甲府城西購買名物「竹林亭」の串カツを加えて、10月から販売を始めました。その名も「KJきら林亭」としてリニューアル。2月10日の最後の販売日まで、生徒たちに放課後のエネルギーチャージを続けてくれました。

プロジェクトリーダー 末木 見侑 (ビジネス会計系列 敷島中出身)



今年度は、新型コロナウイルス感染予防に対応した販売をするために、様々な取り組みをしました。昨年よりも多くの生徒や先生方に利用していただき、活動を重ねる度に仕入数が増えていくのが、何よりも励みになりました。感染防止のため密にならないように、足元に間隔シートを貼りソーシャルディスタンスを保つことや、販売する商品のカードを手作りして、商品には手袋をつけた生徒しか触らないことなど、徹底した対策をしました。きららベーカリーさんには、昨年に引き続き私たちの活動にご協力いただき感謝の気持ちでいっぱいです。また竹林亭さんは、今年初めて串カツを仕入れるため、急なお願いであったのにもかかわらず、快く引き受けてくださりうれしかったです。コロナ禍で、今までとは販売の形式も変わる中、仕入や販売をするうえで難しさや大切なことなど、将来必ず役に立つことをたくさん学ぶことができました。



来年度も現2年次生が取り組んでいくと思うので、これからも「KJきら林亭」をよろしくお願いします。

今年度は広報にも力を入れました。お昼の放送で全校生徒に呼び掛けたり、広報紙を発行しました。小池優菜さん(情報管理系列 甲府東中出身)は、マスコットキャラクターの製作に取り組み、「きらりちゃん」を生み出しました。季節ごとに発行されるKJきら林亭だよりは、絵も文字もすべて手書きです。将来はイラストに関わる仕事をしたいと話す優菜さん。初めての作品「きらりちゃん」は、これからもKJきら林亭で活躍していきます。



KJきら林亭だより 12月 クリスマス号

3月1日、3年次生が卒業します。今年度はコロナ禍で、日程の変更や求人状況など、進路決定に大きな影響がありました。その中でも、3年次生は進路実現に向けて前向きに取り組み、素晴らしい実績を残しました。

津金 志帆 (人文社会系列 甲府南西中出身)

山梨県立大学 国際政策学部 国際コミュニケーション学科

3年次生になり受験を控えていたことで、緊張や不安がありました。それに加えて新型コロナウイルスの影響で休校になったり、入試の情報が入ってこなかったりと、暗中模索のまま受験に向かっていったように思います。山梨県立大学で勉強したいと思った理由は英語学習や国際交流が盛んであること、そして地域に密着して地域活性化に関わる取り組みをしているからです。この生まれ育った山梨をより多くの人に愛され、活気のある街にするために取り組みたいと考えました。入試に向けて、小論文や面接に全力で取り組みました。受験があった11月に入ってから、毎日たくさんの先生方にご指導をいただきました。たくさん失敗して上手くいっていないと感じた日が続きましたが、その中でも山梨県立大学で勉強したいという目標を見失わなかったことがとても大きかったです。私からのメッセージは「勉強も部活動も、高校生活での出来事は何事も大きな財産となる」です。この3年間を振り返って、無駄なことはなかったように思います。どんなこともぜひチャレンジしてください。



石川 大貴 (メカトロニクス系列 双葉中出身)

東京エレクトロンテクノロジーソリューションズ株式会社

今年度は技能検定の2級の合格に向けて頑張ってきました。進路先を決めた理由はAIや5G、自動運転などにより、半導体の需要が高まることや自分自身を成長させることができる企業だと感じたからです。入社試験まではSPI対策と面接練習に取り組みました。また企業研究をしっかり行い、何をしている会社か、何の役に立っている会社かなどを具体的に調べました。



就職内定率
100%

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、就職は厳しいと感じましたが、高校で3年間頑張ってきたことを認めてもらい、内定をいただくことができました。来年はさらに就職や進学も厳しくなることが予想されますが、目標を持ち続け、諦めないことが大切だと思います。

今号の表紙 応用フードデザイン選択生徒

私たち「応用フードデザイン」選択22名は2年次の「フードデザイン」の授業に引き続き、たくさんの「食」に関する学習をしてきました。今年度はビュッフェパーティーを開催できませんでしたが、今まで学んだことを活かし、感謝の気持ちを込めて調理しました。



KJ 通信 We love Josai.

発行日 令和3年3月1日

山梨県立 甲府城西高等学校

〒400-0064 山梨県甲府市下飯田1丁目9-1

TEL 055-223-3101 FAX 055-223-3103

URL : <https://www.josaih.kai.ed.jp/>

Mail : josaih@kai.ed.jp

Kofu
Josai

